

神戸市クレド（神戸市職員の志）の手引き

目 次

| | |
|---------------------------|---|
| 神戸市クレド（神戸市職員の志） | 1 |
| 1. 「神戸市クレド（神戸市職員の志）」策定の趣旨 | 2 |
| 2. 神戸市クレドの位置づけ | 3 |
| 3. 理念 | 4 |
| 4. 行動指針 | 5 |

神戸市クレド(神戸市職員の志)

理 念

私たちは、神戸のまちに、神戸のひとに、
進取の気風に、愛着と誇りを持ち、
神戸の今、そして未来のために、行動します。

行動指針

一、どんなときも、市民目線で

市民との対話を大切にし、神戸市で暮らす人、働く人、学ぶ人、集う人、
そして未来の市民のことを、同じ目線で考えます。

二、圧倒的な当事者意識を持って

課題を自分ごととし、果たすべき役割は何か、
最善の行動は何かを考え、主体的かつ積極的に職務に取り組みます。

三、変化を捉え、果敢にチャレンジ

広く社会に貢献できるよう先駆的な取り組みに積極的に挑戦します。
テクノロジーの進化を大胆に取り入れ、果敢に未知の可能性に挑戦します。

四、高い倫理意識と、誠実さを

全体の奉仕者として、法令を遵守し、社会規範や社会の常識に則り、
市民の期待と信頼に応えられるよう行動します。

五、気持ちよく働ける職場のために

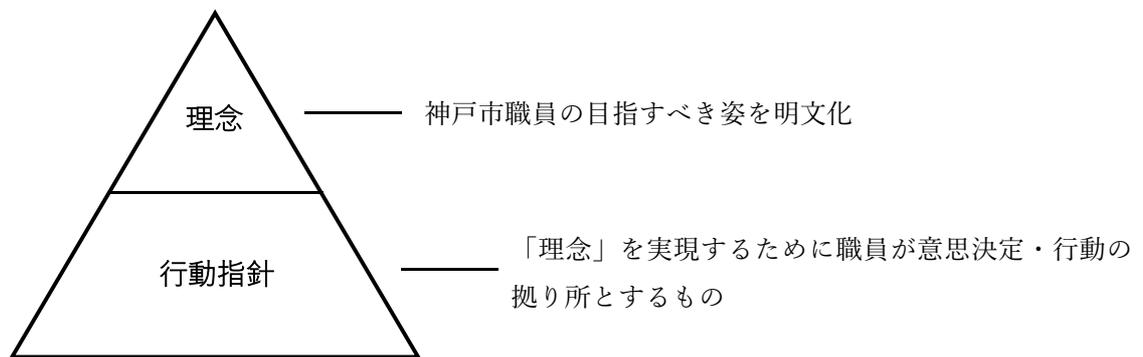
神戸市役所として最高のパフォーマンスを発揮できるよう、
業務のあり方を絶えず見直し、
職員一人ひとりがいきいきと働ける環境とは何かを考え、自ら実践します。

1. 「神戸市クレド（神戸市職員の志）」策定の趣旨

令和元年5月に策定した「神戸市役所改革方針」の組織風土改革の取り組みのひとつとして、この度、「神戸市クレド（神戸市職員の志）」（以下、神戸市クレド）を策定しました。

私たちは、業務を進めていくにあたって、様々な場面で自ら考え、判断、行動をしていかなければなりません。神戸市クレドが全ての職員にとって、業務における判断、行動の拠り所（物差し）として、具体的に機能するもの、今よりも一歩ステップアップするために背中を押すものになるよう、理念と行動指針を策定しています。

（神戸市クレドの構成イメージ）

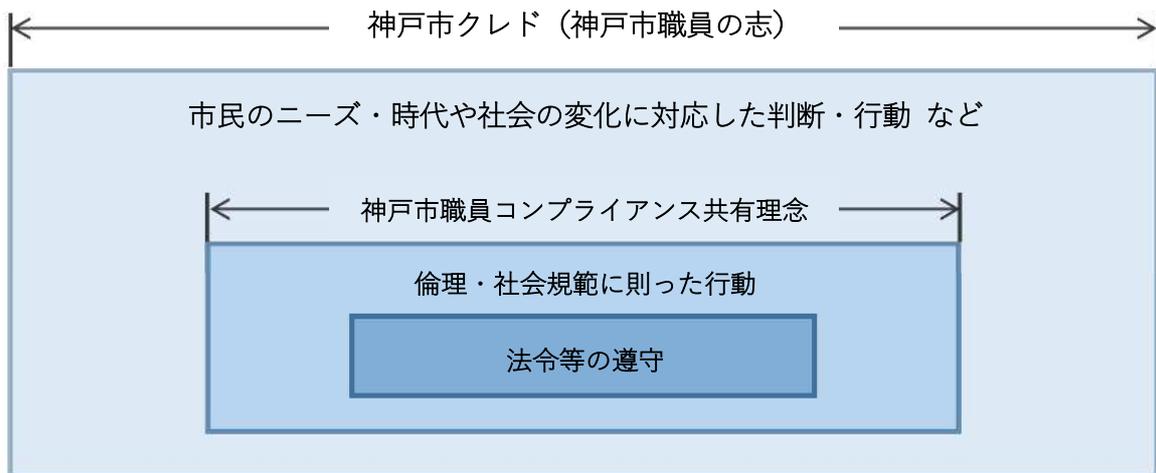


2. 神戸市クレドの位置づけ

神戸市職員が共有すべき理念として、これまでに「神戸市職員コンプライアンス共有理念」が策定されています。

「神戸市職員コンプライアンス共有理念」は、職員一人ひとりが日常業務の中で法令の遵守や倫理・社会規範に則った行動などコンプライアンスを意識し、組織全体のコンプライアンスを向上させていくために策定されたものです。

一方、神戸市クレドはより幅広く、市民のニーズ、時代や社会の変化への対応など、それぞれの業務の中で職員がどのように判断、行動すべきかを示し、職員一人ひとりが主体的に考え、適切かつ迅速な意思決定に導くために策定するものです。



3. 理念

私たちは、神戸のまちに、神戸のひとに、
進取の気風に、愛着と誇りを持ち、
神戸の今、そして未来のために、行動をします。

神戸市クレドにおいて、「理念」とは、神戸市職員の目指すべき姿を明文化したものです。

神戸市職員として業務をする上で、神戸市のこれまでの歴史や成り立ち、神戸市で暮らす人、働く人、学ぶ人の営みなど、まちのことを知ることは非常に大切です。

また、神戸市はこれまで、進取の気風に富んだ市民性を持ち、新しい気風や多彩な文化を取り入れながら発展を遂げてきました。

まちのことをより広く、深く知り、まちへの愛着と誇りを深めるとともに、これまでの神戸市を育んできた市民性を受け継いで、全ての市民、神戸市にかかわる人のために、よりよいまちを目指して業務に取り組むことが、私たち神戸市職員の目指すべき姿です。

4. 行動指針

神戸市クレドにおいて、「行動指針」とは、「理念」を実現するために、職員一人ひとりがそれぞれの業務における判断、行動の際に拠り所とすべきことを示したものです。

以下の5つの「行動指針」に基づいた判断、行動を、業務において実践することを心掛けてください。

一、どんなときも、市民目線で

市民との対話を大切にし、神戸市で暮らす人、働く人、学ぶ人、集う人、そして未来の市民のことを、同じ目線で考えます。

すべての業務において、市民のためになっているのか、市民の立場で考えることができるのか、という視点を持つことが必要です。

神戸市で暮らし、働き、学び、集う人々、そしてこれから神戸市に生まれてくる、この先やってくる人々のことを、相手の立場に立って考え、全ての市民のためになることを第一に、市民と対話をしながら、今すべきこと、そしてこれからの業務のあり方を考えることが重要です。

二、圧倒的な当事者意識を持って

課題を自分ごととし、果たすべき役割は何か、最善の行動は何かを考え、主体的かつ積極的に職務に取り組みます。

私たちは日々業務の中で、迅速かつ適切な、判断、行動を求められます。

組織として解決すべき課題に対し、職員一人ひとりが当事者意識をもって、自分自身に求められる役割を自ら積極的に考え、果たしていくことが必要です。

また、ひとつの部局では解決できない課題に対し、それぞれが組織の一員として、部局の立場を越えて協力、協働していくことも重要です。

三、変化を捉え、果敢にチャレンジ

広く社会に貢献できるよう先駆的な取り組みに積極的に挑戦します。

テクノロジーの進化を大胆に取り入れ、果敢に未知の可能性に挑戦します。

社会情勢が大きく変化していく中で、私たちは、時代に応じた業務となっているか、社会のニーズに応えられているか、という視点を持って業務改善、業務改革に取り組んでいく必要があります。

絶えず自己研さんを心掛け、知見を広げて、時代や社会情勢の変化をいち早く、的確に捉え、先進的な技術や新しい働き方等を積極的に活用していくことが重要です。

さらに、かつての5大市として他の自治体に先駆けて発展を遂げてきた都市の職員として、神戸市だけでなく社会全体の発展に貢献していけるよう、意欲と熱意を持って取り組むことが大切です。

四、高い倫理意識と、誠実さを

全体の奉仕者として、法令を遵守し、社会規範や社会の常識に則り、

市民の期待と信頼に応えられるよう行動します。

私たちは公務員として、あらゆる業務において、絶えずコンプライアンスを意識し、法令や組織内部のルールだけでなく、「市民の期待に応えているか」という判断基準を持って職務を執行することが求められます。また、職務外の行動であっても、それが公務に対する市民の信頼に影響を及ぼすことがあることを自覚し、行動する必要があります。

より具体的な内容が示された「コンプライアンス共有理念」も確認のうえ、職員一人ひとりが自律的に行動をマネジメントし、組織全体のコンプライアンスを向上させていくことが重要です。

五、気持ちよく働ける職場のために

神戸市役所として最高のパフォーマンスを発揮できるよう、
業務のあり方を絶えず見直し、
職員一人ひとりがいきいきと働ける環境とは何かを考え、自ら実践します。

質の高い市民サービスと生産性の向上を実現するためには、常に業務を効率化するとともに、職員一人ひとりが健康的にいきいきと働き、自身の持つ能力を最大限に発揮して、市役所全体として最大の効果を上げることが不可欠です。

そのためには、まず、業務のあり方について、前例や慣習にとらわれず積極的に見直しを図ることが必要です。そして、前向きに仕事に取り組むができる環境をつくるために、職場だけでなく、家庭や友人関係などにおいても、互いに尊重し合い、自分ができることを考え、積極的に実践することが重要です。